

日本海洋文化総合研究所

投稿要領（海ノ民話学ジャーナル用）

1. 投稿にあたっての留意事項

原稿は、日本語または英語で書かれた内容で、投稿時においてその主要部分が未公表であり、他誌に投稿中または審査中でないものとします。なお、原稿については、日本海洋文化総合研究所（JIMC）で内容のチェックを行い、場合によっては修正を要求することがあることをご了承ください。

著者校正は初校までとし、再校は JIMC で行います。掲載された学術論文、研究ノート、研究資料は原則として返却しませんので、図版や電子記憶媒体など、返却を求める場合はあらかじめ JIMC に申し出てください。

なお、投稿要領に関するお問い合わせは、JIMC 事務局までお願ひいたします。

【お問い合わせ先】 JIMC 事務局 hello@jimc.or.jp

2. 原稿の締切期限と校正スケジュール

2026 年 1 月 10 日（土）

3. 原稿の提出方法

sediter@jimc.or.jp（JIMC 学術委員会あて）にお送りください。

4. 著作権

（1）掲載された学術論文、研究ノート、研究資料の著作権（著作財産権：copyright）は JIMC およびジャーナル発行者に帰属します。ただし、その使用はクリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示 2.1（CCBY：<https://creativecommons.jp/licenses/>）のもとで許可されます。

（2）受理された学術論文、研究ノート、研究資料の連絡著者は、別紙に定める著作権譲渡等同意書に著者を代表して署名の上、これを JIMC へ提出してください。

5. 原稿企画と書き方

（1）原稿（本文・要約を含む）は「版下原稿」PDF とします。

（2）「版下原稿」とは、そのまま印刷できるような割り付けした原稿であり、ワープロソフト等で執筆し、版下用図・表・写真等を貼り込んだものをいいます。

第 1 頁目は標題、氏名・英語要旨・キーワード・所属機関等の記載分だけ本文記入が削減されます。

(3) 原稿の大きさはA4判とします.文字サイズは10.5ポイント,横書き(句読点は「, .」)でお願いします.学術論文は最大10頁,研究ノート,研究資料は最大4頁とします.

(4) 原稿の余白は上20mm,下20mm,左右各20mmとし,この記入枠外に記入しないでください.

(5) 1行あたり23文字で1頁は45行2段組とします.(文字23×45行×2段=2070字).

(6) 原稿は必要に応じてJIMCにおいて版を作り直すことがあります.ご不明な点はJIMC事務局までお問い合わせをお願いいたします。

6. 学術論文の構成

本文

a) 標題 (Title) と氏名 (Author)

b) 要旨 (Abstract)

c) キーワード (Keywords)

d) 所属機関・学位 (Information about Author／1頁目下欄)

e) 本文 (本文は図・表・写真を含め, 下記を標準とする)

イ. まえがき (Introduction)

ロ. 本論 (Body)

ハ. 結語 (Conclusion)

ニ. 謝辞 (Acknowledgment)

f) 付録(Appendix), 注(Notes), 参考文献(References), Data Availability Statement

※研究ノート,研究資料については,上記を参考に作成すること.

7. 標題と氏名

(1) 標題の書き方は, 和文標題を先に, その下行に英文標題を記載する.氏名の場合も同様の順序とする.

(2) 標題は学術論文, 研究ノート, 研究資料の内容を具体的に表現したものとする.

(3) 連続する数編を執筆する場合, 主題は個々の論文内容を表現するものとし, 総主題にはその1, その2などを付す.また, 記載する順番は総主題, 主題, 副題の順とし, 総主題を付ける場合, 総主題と主題の間には「:」を挿入する.

(4) 標題・氏名欄等の取り方は以下の通りとする.

a) 「通しノンブル」「発行年月日」の貼り付け欄として先頭の本文相当2行を空白行とする.

b) 標題および氏名欄は第2行目から概ね13行までの範囲で, 上下に十分な空白行を取って割り付ける.

c) このうち、標題と氏名の間は 2 行程度の空白行を設ける。

なお、本欄は字体統一のため、必要に応じて JIMC において版を作り直すので、十分な行数を確保すること。

(5) 旧姓がある場合、旧姓と現姓の併記不可とし、どちらかを選んで記載すること。

8. 英文要旨

論文の内容の主要な点を 100 語以内に簡潔にまとめ、本文の前に添える。

9. キーワード

キーワードは 3 ~ 6 語（英文 Keywords, 和文 Keywords ）を記入する。

10. 所属機関・学位

論文の発表者全員の所属機関、職位、学位（和文名、英文名）を明記する。

11. 本文

(1) 本文の書き方

a) 文章および数式は明瞭に記入する。

b) 和文の文体は口語体とし、原則として常用漢字・新かなづかいを用い、用語はなるべく文部科学省・各学会で編集している「学術用語集」の表記を用いること。固有名詞や学会で用いられている慣用術語はこの限りではありません。

c) ローマ字、アラビア数字、ギリシャ文字、上ツキ、下ツキ、大文字、小文字などまぎらわしいものは特に注意を払うこと。

d) 図・表・写真の横には、原則として本文は書かない。

(2) 数式

a) 数式には、(1),(2),(3)などと通し番号を付す。

b) 添字は論文の仕上り時に見える大きさとする。

(3) 図・表・写真

a) 版下原稿作成

①版下原稿を作成する。

②図表は直接掲載位置に貼り込む。

③写真の中に直接説明が入る場合は、写真に直接タイプ文字を貼り込む。

④図表は原則日本語か英語とし、著者が選択する。また、文字と記号等は仕上がりの大きさ(A4判)で十分に判読できる大きさでなければならない。

b) キャプションと通し番号

①図・表・写真には、内容を明確に表すキャプションを必ず付ける。書体はゴシック体とする。

②図・表・写真のキャプションは原則日本語とし、著者が選択する。ただし、必要に応じて他の言語の併記を認める。

英文キャプションの書き方は、初語の頭文字のみを大文字とし、その他は小文字を用いる。ピリオドは省略する。

③キャプションには、図・表・写真ごとに通し番号を付ける。

この時、章ごとに分けずに、Fig. 1, Fig. 2, …, Table 1, Table 2, …, Photo1, Photo 2, …, などと記入する。書体はゴシック体とする。

④キャプション記入位置は、図・写真の場合その直下、表の場合はその直上とする。

12. 注・参考文献・Data Availability Statement

(1) 注および参考文献は、本文の後にそれぞれを使用順に番号を付け、まとめて掲載する。

(2) 注および参考文献の番号は、本文中の引用箇所に肩付き文字 1),2),注 1),注 2) のように明記する。

(3) 参考文献の記載方法は以下の通りである。

a) 参考文献は原則として英語で記載すること。英語以外の文献を引用する際には、英文タイトルがある場合はそれを記載し、ない場合はローマ字で表記し、著者による英訳を付す場合はカッコ内に記載する。また、英語以外の文献をあげる場合は原則として原語と英語を併記すること。

ただし、原著と翻訳版は別々の文献とみなす。そのため英語の原著を参照する場合は翻訳版のタイトル等を併記せず、また英語以外の翻訳版を参照する場合は英語以外の文献を引用する際と同じ対応とする。

b) 論文等の場合は原則「著者名：標題、誌名、Vol., No., 掲載ページ、発行年」の順とする。著者名については文献の表記に従い、姓名または名姓と記す。

c) 単行本の場合は原則「著（編）者名：書名、発行所名、発行年」の順とする。著者名については文献の表記に従い、姓名または名姓と記す。

d) 連名者が多い場合、日本語は「ほか〇名」、英語は「et al.」と省略することもできる。

e) 発行年は原則として西暦で記す。

f) DOI（デジタルオブジェクト識別子）のある文献の場合は DOI を記す。

(4) 一般に公表されていない文献、たとえば未発表の論文、簡易印刷（コピーしたものなど）の委員会報告や社内報告および私信などは、文献として扱わない。

必要とあれば注とし、引用箇所に肩つき文字注 1),注 2) のように明記する。

(5) 図・表・写真などの引用・転載にあたっては、著者自身が原著者などの著作権所有者の許可をとらなければならない。

(6) 電子文献については

https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12003258/jipsti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf を参照する。

(7) Data Availability Statement として,本文で示された研究結果や分析を裏付けるデータや,公表・共有に関する情報を記載することができる.ただしデータ公開先として示すことができるのは DOI に限る.

(8) 記載例

参考文献

- 1) Luco, J. E. and Westmann, R. A.: Dynamic Response of Circular Footings, Journal of the Engineering Mechanics, ASCE, Vol. 97, pp. 1381-1395, 2017
- 2) K. Kenchiku and H. Shirakawa: Experimental Study on Braces Using Mortal Planks, Journal of Structural and Construction Engineering (Transactions of AIJ), Vol. 77, No. 777, pp. 778-787, 2016(in Japanese) 建築健太郎, 白川華花:モルタル板を用いたブレースの実験的研究, 日本建築学会構造系論文集, 第 77 卷, 第 777 号, pp. 778-787, 2016 (DOI: <https://doi.org/10.3130/aijs.77.778>)
- 3) K. Kenchiku and K. Tanaka: Field Measurement of VOC in Dust in Residential Buildings, Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ), Vol. 77, No. 789, pp. 1789-1798, 2016 (in Japanese) 建築健太郎, 田中建:住宅におけるダスト中 VOC 濃度測定, 日本建築学会環境系論文集, 第 77 卷, 第 789 号, pp. 1789-1798, 2016 (DOI: <https://doi.org/10.3130/aije.77.1789>)
- 4) T. Nakamura: Nihonkenchikujii (Japanese Terminology Dictionary for Architectures), Maruzen, 1906 (in Japanese) 中村達太郎:日本建築辞彙, 丸善, 1906
- 5) H. Kenchiku and T. Isho: About Asian Architecture, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, Architectural Planning and Design, pp. 1-2, 2020
建築 創, 意匠 工: アジアの建築について, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 1-2, 2020

注

注 1) 「大工頭中井家文書」(史学第 37 卷第 1 号～第 46 卷第 1 号) 105 によると, 紫重右衛門が中井大和守の配下で勘定方を担当したことがわかる.また長香寺寄託中井家文書に「慶長十五年十九年, 駿河御用少々記」と題する留帳があり, その中の「駿河御城大工作料方に渡手形之覚」は慶長 15 年 11 月 15 日に中井信濃守が作料を請取った旨を紫重右衛門, 村伊右衛門に宛てた覚書の写しで, この両名が中井家の勘定を担当していたことを示している.

Data Availability Statement

根拠データから下記 DOI から利用できます.

<https://doi.org/10.3130/xxxx>

(9) 注および参考文献等記入後の論文の末尾に原稿受理・採用決定年月日記載用に2行程度の空白を取る（この欄は JIMC で作成する）.

1 2. 電子形態による公開

掲載された本会および関連するサーバーで,
電子形態によって全文が公開される.

1 3. その他

(1) 著者が英語を母国語としない場合、投稿前に英文校閲を行うことを推奨する.

(2) 不備な原稿等の返却

論文応募規程、本執筆要領、版下原稿執筆の手引きの下記に示す事項を守っていない論文は事務的に返却する.

a) 既発表の論文

b) 連続した論文の先の編の査読が終了していないもの

c) 応募資格者以外が著者になっているもの

d) JIMC 原稿規格以外のもの

e) 頁数制限を超過したもの

f) 原稿の記入枠・行数・字数等の規格と書き方を守っていないもの

g) 図・表・写真等が版下原稿として作成されていないもの、および不鮮明なもの

h) 「版下原稿」の場合、本文・注・参考文献の文字の大きさと種別が適切でないもの、
および文字が不鮮明なもの

i) 参考文献が英語で記載されていないもの

j) 提出原稿の部数・添付文書等の不備なもの

(3) 校正

著者が校正を行う.